

こんなことが米で起こっている：共産主義という犯罪の ラクリを知れ

Greatchain

2020/08/07

もしかりに「広島に原爆を落としたのは、日本軍だった——彼らは、我々に罪をなすりつけようとしてやったのだ」というような説を、巧妙で狡猾な者たちが、日本人に植え付け、成功していたとしたら、我々は今頃、**魂を抜かれた**亡者として生きていたであろう。幸い、そういうことにはならなかった。しかし、そういうことが起こってもおかしくないような、不気味な悪魔的な雰囲気、今のアメリカには漂っている。

我々がこの悪魔的なものに騙され、気づかないでいる事情を、かなり前、デイヴィッド・ウィルコックがこう喩えた——「やがて我々は、心から信用していた人々に、ひどく裏切られる経験をするだろう」。確かに、その通りだった。しかし、その比喩として使われた写真が感心しない。そこには、完全に信用していた夫に裏切られた妻が、あっと驚いている、他の女性とのベッドシーンが使われていた。これは、わかり易いのはよいが、いま起こっている世界的な悪の、規模や性質を説明するものではない。「魂を抜かれた」と私が言ったのは、単なる比喩ではない。現実起こっている、あるいは、ある者たちが現実に起こそうとしている、恐ろしい陰謀の事実である。これを参照されたい：——

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/200803.pdf>

私がここでよく翻訳紹介する、民主党やBLMや腐敗メディアの、呆れるような、非常識で暴力的な話は、毎日、洪水のように現れては消え、どれから手を付けてよいかわからないが、その根にあるのは、やはり「悪そのもの」である。それを一つここで紹介しよう。



NeonNettle, August 9, 2020

ロサンゼルス市長、COVID 命令に違反する者は、水と電気の供給を断つと脅迫：—Eric Garcetti 市長が「大きな」集会を行う家や事務所は、供給を切ると通告

ロサンゼルス市の民主党市長エリック・ガーセッティは、「大きな」集会を行うことによって、市の COVID 命令に違反する家や事務所に対しては、水や電力の供給を断つと脅迫の通告をした。

ガーセッティ市長は、水曜日夕方、市は、大きな集会やパーティーを行う私的な家や事務所に対しては、極端な処置を講ずると明言した。

「こうした大きなパーティーの及ぼす結果は、そのパーティーをはるかに超えて、さざ波を立てるものだ」と、ガーセッティは記者会見で言った。

「それらは、我々の共同体全体にさざ波を立てる。なぜなら、ウイルスは急速に、簡単に拡散するからだ。」ガーセッティは、「大きな家のパーティーは、実質的に、山の中のナイトクラブになってしまった」と言った。FoxNews ロサンゼルスはそう伝えている。

ガーセッティは、このポリシーは「家や事務所や他の施設が、許可されていない大きな集会を行う、悪辣な場合に対して」これを弾圧することが狙いだと言った。



ベバリーヒルズのある華やかな住宅のパーティーで、致命的銃撃があった後、この通告がなされた

この民主党市長の通告は、ベバリーヒルズの住宅でのパーティーの後でなされた、と Daily Wire は報じた。

この集会には、少なくとも 200 人の客が集まり、パーティー妨害者たちが現れたときには、暴力に転じたと言われている。

一人の女性は致命的な銃弾を受け、他の二人がこの事件で負傷した。

ガーセッティは、後にこのパーティーについては、短く言及し、他の大きな事件に交えて、強力な 2 次感染者が、「いかに、失われていく生命に、途方もない影響を与えてしまうか」を強調した。

市長は、いわゆるナイトクラブについて話しながら、「多くの場合、こうした家は空き家か、短期間のレンタルになっている」と言った。

「そして騒音や、交通混雑や、迷惑のほかに、これらの大きなパーティーは危険が多く、ロサンゼルス人が命を落とす可能性がある。」

彼は記者たちに対し、この新しいポリシーは、金曜日の午後に発効すると言ひ、繰り返す犯罪者たちは、実力行使の主たる対象になると言った：――

「もしロサンゼルス警察が反応して、大きな集会が、誰かの所有地で起こっていることを確かめたら――そして、こうした場所でしばしば行われているのを見たら――我々は通告と共に、水道と電力供給が、次の 48 時間以内に、断絶される措置を要求する。」

「はっきり言えば、我々はあなた方が、どんな大きさの集会でも避けることを希望するが、この実力行使は、人々の家の小さな、また普通の集会に焦点があるのではない」と、ガーセッティはつけ加えた。

「これらは、規則を破る決心をしていて、かなり重大な公的危険と脅威を、我々全員に及ぼすと考えられる者たちに、焦点が当てられている。」



エリック・ガーセッティ市長が、「社会的距離」の命令を破って、BLM 集団に膝まづいているのが見える

Fox News のロサンゼルス記者 Bill Melugin によれば、市長は自分の、この新しい政策を執行する決定は、「強力な法律に基づいたものだ」と言ったという。

「これは実行可能なことがわかっている」と、ガーセッティは言った。彼はまた、この市の弁護士たちが、この決定の顧問になっていると言った。

遡って3月、ガーセッティはまた、水道と電気を切る脅迫を行ったが、これは、コロナウィルス保健局の命令にもかかわらず、繰り返し店を閉めるのを拒否する、いわゆる不必要なビジネスに対するものである。・・・

以上、これを読む日本の読者は、こんなことがアメリカで本当に起こっているのかと、目を疑うであろう。こんなことは例外的な出来事で、何かの誤解か偏見によるものではないかと思う人がいるだろう。しかし今アメリカで起こっている暴動、または内乱というべきものの、ニュースを見る限り、これが現時点でのアメリカの「日常」になっている。こうしたニュース項目が、それほど注目もされず、現れては消えていく。

こうした事件の背後にいるのは誰か？ それは COVID-19 (新型コロナウイルス) 患者を救うと称して、実は救うのでなく、逆にこれを生物兵器として利用し、これぞチャンス到来として、一般庶民の発言も行動も完全に封じ、牢獄に閉じ込めようとする者たちである。

そのやり方が、ここに書かれている通り、滑稽なほど、エゲツナイ（露骨で破廉恥な）ものである。まず集会を禁ずる。これは扇動を禁じ、自由な討論に火が付くのを防ぐため

ある。そして、その禁止を破った場合には、水道と電力を止めると言っている。これがひどい。私は知らないが、最もひどい共産主義体制でも、こんなことがあつたらうか？ これは体制を批判するような（そうと疑われるような）発言さえするな、それをやれば水も飲まさない——ということだから、牢獄に入っているのと同じである。

ガーセッティ市長が脅迫（あるいは買収）されていることは、ほぼ明らかである。市長や知事が、脅迫（買収）されているのだらうと考えざるを得ない暴動（占拠事件）が、相次いでいる。それほど、BLM と共産主義者の仲が良いということだらう。これに皮肉を言えば、こんな固い協力関係は、どれほど脆いだらうか、とも言える。

市長を真ん中にした人々（BLM だという）の写真をご覧いただきたい。何か盟約を結んでいるように見えるが、市長が脅迫されているようにも見える。こんな市長を指して、「臆病者！」と大声で叫びたいところだが、彼が拒否すれば確実に殺されるであらうから、それはできない。